

# 核抑止論、脱却求めん

## 禁止条約会議 宣言採択し閉幕

【1】ヨーローク共同＝船  
運本部で開かれた核兵器禁  
止条約の第2回締約国会議  
は1日、「人類の存亡」に関わ  
る核兵器の脅威に対処し、  
禁止と廃絶に取り組む」と  
の決意を新たに示す政治宣  
言を採択して閉幕した。ロシ  
アのウクライナ侵攻やペレ  
スチナ自治区カラでの戦闘  
で国際情勢の緊張が高まる  
中、核リスクに危機感を表明  
し、核廃絶は急務だと強調。核  
の威嚇に基づく抑止論の正  
当性を否定し脱却を求めた。

【4、26面に闇運記事】  
同会議は、核兵器や核実  
験の被害者の支援する国  
際基金設立の実現可能性を  
業部会で集中的に議論す  
る」にも決めた。第3回締  
約国会議は2025年3月  
3～7日に国連本部で開催  
する。

宣言は、被爆者や非政府  
組織（NGO）など幅広い  
関係者の「積極的な関与」  
に謝意を示した。米英仏中  
ロの核保有五大国が軍事ド  
クトリンなどに核兵器に重  
点を置き、質・量ともに増  
強している現状について  
「（核拡散防止条約が規定  
する）軍縮交渉義務を果た  
していない」と批判した。

「核共有」を巡り、検討  
段階の宣言案では「維持、  
追求に反対する」と明記し  
ていたが、最終的には直接

の言及を避け、「非核保有  
國の領土への核配備」を憂  
慮するとの表現にとどめ  
た。オブザーバー参加した  
北大西洋条約機構（NAT  
O）加盟国のドイツとベル  
ギー、ノルウェーに配慮し  
たとみられる。

宣言は「人類が核による破  
滅に近づく兆候を見せてい  
る危険な局面でわれわれは  
傍観しているわけにはいか  
ない」とし、核が二度と使わ  
れないことを保証する唯一  
の手段は廃絶だと訴えた。

核抑止論への固執が「核  
軍縮の進展を阻害してい  
る」とも指摘。核による威  
嚇は「軍縮・不拡散体制と  
国際平和、安全を揺るがす」  
と非難した。

アラフエンテ議長（メキ  
シコ）は「核禁止条約は核  
廃絶を目指す上で、最適の  
多国間枠組みだ」と成果を  
強調した。会議は11月27日  
から5日間開かれ、議長に  
よると締約国の59カ国・地  
域、オブザーバーの35カ国  
が参加した。核保有五大国  
は不参加、米国の「核の傘」  
に頼る日本も欠席した。